

# 日本薬物動態学会 第21回ワークショップ

医薬品開発を加速化・効率化するためのボトルネック解消

■ 2007年4月12日(木)、13日(金) ■ 昭和大学・上條講堂(東京都品川区旗の台1-5-8)

第1日目 4月12日 8:55~19:30

## 基調講演

- システムバイオロジーと創薬 秋山 泰(産総研/東工大)

## テーマ1 臨床開発の効率化 (臨床開発におけるボトルネックとその解消)

- 個別化医療における薬物動態研究の役割 山崎浩史(昭和薬大)
- トランスポーター遺伝子変異と薬物動態 杉山雄一(東京大学)
- Biomarker 臨床における探索と応用  
John L. Allison (Veeda Clinical Research)

## テーマ2 創薬段階における加速化 (創薬段階におけるボトルネックとその解消)

- 動物における分子イメージング最先端 塚田秀夫(浜松トニクス)
- 非臨床試験におけるバイオマーカーの探索  
—臨床試験へのブリッジング— 戸塚善三郎(JCLバイオアッセイ)
- In silico ADMET 交渉中
- In silico関係で創薬に関わる最近の話題 梅山秀明(北里大)

懇親会 (ワークショップ参加者は無料)

第2日目 4月13日 9:00~17:35

## 基調講演

- Novel first-in-human studies: pros and cons  
Richard Lalonde (Pfizer USA)

## テーマ1 臨床開発の効率化 (臨床開発におけるボトルネックとその解消)

- 臨床における遺伝子変異と副作用発現 横井毅(金沢大)
- ゲノム薬理学にもとづく医薬品適正使用  
—「その意義は？」— 東純一(大阪大学)
- ファーマコゲノミクスと医薬品の承認審査 宇山佳明(医薬品機構)

## 基調講演

- Bioanalytical method validation Vinod P. Shah(元FDA)

## テーマ2 創薬段階における加速化 (創薬段階におけるボトルネックとその解消)

- Chemically reactive metabolites Barry Jones (Pfizer UK)
- 探索段階における物性研究の役割・重要性 湯田真道(アステラス製薬)
- トランスポーターを介する薬物相互作用評価法 設楽悦久(千葉大学)

# 日本薬物動態学会 第1回ショートコース

代謝物の分離・同定・予測

■ 2007年4月11日(水)  
12:55~17:50

■ 昭和大学・薬学部講義室  
(東京都品川区旗の台1-5-8)

- ソフトイオン化法と構造解析 高山光男(横浜市立大学)
- LC/MSの駆使した代謝物の構造解析手法 戸塚善三郎(JCLバイオアッセイ)
- LC/MS・LC/NMR等を用いた代謝物の構造解析手法 中山 登(中外製薬)
- In silico薬物代謝予測 —応用と限界— 原田 恒博(田辺製薬)
- In cerebroによる薬物代謝経路の推定 池田 敏彦(三共)

参加ご希望の方は、学会ホームページから申し込んでください(最新情報は、学会のホームページ<http://www.jssx.org/>をご覧ください)。

最終締切: 2007年2月28日(水) (申込開始: 2007年1月5日(金))

参加費: **ワークショップ** 日本薬物動態学会 会員15,000円(当日20,000円)、  
非会員25,000円(当日30,000円)、学生5,000円(当日6,000円)

**ショートコース** 日本薬物動態学会 会員20,000円(当日25,000円)、  
非会員30,000円(当日35,000円)、学生7,000円(当日12,000円)

なお、**ワークショップ**と**ショートコース**両方に同時参加登録された方には以下の割引があります。

日本薬物動態学会 会員30,000円(当日40,000円)、  
非会員50,000円(当日60,000円)、学生8,000円(当日14,000円)

連絡先: 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館 財団法人国際医学情報センター内

日本薬物動態学会第21回ワークショップ/第1回ショートコース登録事務局

TEL: 03-5361-7075 FAX: 03-5361-7091

E-MAIL: jssx-ws@imic.or.jpあるいはjssx@imic.or.jp 担当: 小林 通/西澤 展美

代表世話人: 岩崎 一秀(ファイザー株式会社)

主催: 日本薬物動態学会